

山村 尚

改めまして、皆さんこんにちは。本日最後となりました。傍聴の皆様、ありがとうございます。インターネットをご覧の方、お忙しい中ありがとうございます。

通告に従い、二つの一般質問を行います。

一つ目は、市外からまちへの人流誘導に関して。二つ目は、道の駅整備事業の再検証についてです。

まずは、市外からまちへの人流誘導。先日龍ヶ岡公園に行く機会があり、たつのこやま周辺を散策しました。この日は、特にこの地区でのイベントは行われていませんでしたが、暖かく、平日でありながら多くの親子連れでにぎわっていました。また別の週末にこの地を訪れたときは、公園敷地に入る車の多さに加え、公園内はさらに賑わっていました。ここに来る親子連れは一体どこから来ているのか。平日、週末と、駐車場に駐車されている車のナンバーを見たところ、約3分の1が土浦ナンバーではない、明らかに市外から来ている車でした。

一般的な話となりますが、その地域を管轄するナンバー、龍ヶ崎市では土浦ナンバーとなりますが、管轄外のナンバーが多く集まり、また集まるエリアやスポットにはにぎわいがあり、特に観光地ではないこの場所には、市民もそこに多く集まる傾向が見られます。たつのこやま以外にもそのような場所を幾つか目にします。

一方、常磐線を使って龍ヶ崎市駅を降り、市内の散策ルートや散策スポットを訪れる方たちがいらっしやることも耳にします。過去に行われた一般質問の中で、回遊という言葉が多く現れました。回遊とは、巡り回って遊覧すること。目的を持って龍ヶ崎に立ち寄ってくれた方が、他のスポットやエリアにも立ち寄り、見物して回ることであり、その一般質問では、牛久沼や龍ヶ崎市駅前、中心市街地を目的地や回遊先とした質問内容でした。現在、牛久沼土地活用による整備事業の検討や森林公園や北竜台公園、龍ヶ岡公園のサウンディング型市場調査実施などが行われ、市内外から注目されるエリア、スポットも今後つくり出されることが期待されます。

このような背景の中、今回の一般質問では、観光や遊びを目的とし、市外から訪れる来訪者に、いかに市内全域への回遊をしてもらい、市内活性化を図るか。この質問と同様な検討は、他の自治体でも早くから行われています。会津若松市では、まちなか賑わいプロジェクトとして、まちなかの回遊性向上を取組目的の一つとして、まちなか通りの形成や案内板、誘導板の設置、憩いの場の創出など、様々な活動を行っています。また、茨城新聞で掲載された記事では、近隣の阿見町で同様の課題意識を持ちつつ、解決策が見つかっていないとのことでした。

それでは質問に戻ります。

まず、最初の質問です。当市における観光客動態調査の内容と入り込み客数の調査結果について伺います。また、観光や遊びを目的とした市外来訪者はどのスポット、エリアで多く見かけ、また来訪者が行こうとしている目的地がどこなのか、お分かりになる範囲でお聞かせください。

菅沼秀之産業経済部長

観光客動態調査につきましては、観光客の動態を把握し、観光施策の適正な実施及び推進に必要な基礎資料を得ることを目的に、茨城県知事が市町村長に対して調査を委託しているものでございます。本市におきましては、湯ったり館の月別の入館者数及び八坂神社祇園祭、撞舞並びに商業まつり「いがっぺ市」の来場者数を茨城県へ報告しているものでございます。

なお、令和3年度の実績につきましては、湯ったり館の入館者数10万4,230人の報告となっており、イベントの来場者数につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴いイベントが中止になっていることから、令和2年度及び3年度の実績はございません。

次に、市外の方がどのようなスポット、エリアに訪れているか、また行こうとしている目的につきましては、具体化するための調査は行っておりませんが、市外の方からは、般若院のシダレザクラや撞舞の問合せを多くいただいていることから、お越しいただき、ご観覧いただいているものと認識しております。そのほか、温浴施設やゴルフ場などの体験型レジャー施設につきましても、市外にお住まいの方がお越しいただいているスポットであると推測しております。

山村 尚

ありがとうございました。当市の観光動態調査の調査結果を伺えば、市全域の来訪者数が分かると思いましたが、当市では、過去数年間、ご答弁いただいた調査地点のみの報告で変更はなく、またコロナの影響でイベント報告もされていないとのことでした。県内の他の自治体と比較し、多いのか少ないのか、増減傾向はどうかのことが分かると思ったのですが、確認できませんでした。

私が知る市外来訪者が恒常的に行く目的地は、答弁をいただいた場所以外では、牛久沼湖畔、若柴のねがらの小径、龍ヶ崎飛行場、泉町にあるつくばサバゲーランドなどがあるかと思っています。

続いての質問です。

当市へ観光や遊びを目的としていらした来訪者に対し、これまで行った回遊を促進する取組、当市へ関心を持ってもらう取組はどのようなものがあり、また来訪者の人流誘導に関してどのようにお考えか、お聞かせください。

菅沼秀之産業経済部長

市外の方に本市の魅力を知っていただき、観光などの目的でお越しいただくための取組につきましては、イベントの開催とその周知PRが主なものとなっております。イベントの周知PRにつきましては、JR龍ヶ崎駅や観光物産センターなどでのポスター掲示やチラシの配架に加え、市公式ホームページ、ツイッター、LINEなどの電子媒体を積極的に活用して、より多くの方に知っていただくための取組を行うなど、市外来訪者の呼び込みに努めております。また、本市の魅力を知っていただくための取組といたしましては、市外で開催されているイベント等におきまして、観光PRブースを出展することに加え、龍ヶ崎観光アンバサダーによる情報発信などを行っております。さらに、今年度につきましては、茨城の観光を推進し、地域の活性化を図るための観光キャンペーンであります茨城デスティネーションキャンペーンのプレキャンペーンが開催されており、本市としましては、市外来訪者の呼び込むため積極的に企画立案を行い、観光資源の紹介を行っております。

今後につきましては、これまでの観光資源に加え、新たな地域資源を活用し、龍ヶ崎市商工会や龍ヶ崎市観光物産協会などと連携を図り、市内での回遊を促す取組について検討してまいりたいと考えております。

山村 尚

ありがとうございました。イベント開催やその周知PRはやっているけれども、回遊を促進する取組は今後行っていきたいとのことでした。

最初の質問の中で述べた観光客動態調査の結果報告書を見ました。その中に、旅行に関してではありますが、どのような媒体から情報を入手して行き先を決定しているのかとのアンケートがありました。アンケート結果を見ると、知人が23%でトップです。次いでインターネットが

20.1%, その次がテレビ・ラジオで10.5%, 最下位はポスターの1.4%との結果でした。やはり知人からの口コミやインターネットが特に多く、インターネットを使った仕組みをどううまく上手に活用するかが来訪者、回遊客を増やすことができるポイントと考えます。

続いて、人流の誘導案についてです。

現在市外から当市への多くの来訪者がいる一方、その方々が市内全域を回遊するといった光景をあまり目にすることはありません。今あるものを活用し、回遊を促進できないか、これについて考えてみました。一つ目は、レンタサイクルの活用です。全国の事例を見てみると、人の集まる主立った場所にレンタサイクルの施設が設置されています。そこを拠点に、市内の回遊を促し、まちの魅力を知ってもらう、これを目的としています。

先日私も福井市に視察に行った際に、空き時間を見つけて自転車を借り、まちを一周しました。一体どのようなまちなのか、パンフレットを見ただけでその実感は難しく、約1時間、全てを見ることができませんでした。町並みや景色、人の往来を見ることができ、このまちの歴史や産業、文化など、様々なものに興味が湧き、また訪れてみたいと感じました。

一方、当市の玄関口である龍ヶ崎市駅東口の駐輪場に、レンタサイクル用自転車が6台配置されています。JR改札口を出て東口階段を降りても、このレンタサイクルの存在は分かりづらく、せっかくまちを回遊できる手段の一つでありながら、宝の持ち腐れだと感じます。この案内を、駅なかやデジタルサイネージに表示することで、駅に降り立った方々がこれを知り、市内の回遊につながります。私が福井市で感じたように、まちに興味を持ち、リピートする方の増えることが期待できます。

二つ目が、同じく駅に降り立った方への観光案内誘導です。龍ヶ崎市駅で降車する観光・遊びを目的とした市外来訪者の方は、目的地があって、それを目指して訪れる方が多いと感じます。駅前で小学生の登下校見回りしている方から伺った話では、駅の階段を下りてくる方から、「佐貫駅はどこですか」であったり「水辺公園はどこですか」であったり「金龍寺にはどう行ったらいいですか」などと聞かれることが度々あるとのことでした。東口には観光案内も兼ねる観光物産センターや分かりやすい観光案内地図がありますが、駅の改札を出てもそれを案内するものではなく、降りた出口によっては迷ってしまう方も多いのではと考えます。当市に関心を持ち、当市を選んで来てくださった方々が迷わぬよう駅なかに案内を表示し、情報の提供ができるよう検討をお願いしたいと思います。

最後は、スマホを活用した人流の誘導です。最近スマートフォンの普及とともに、LINEは身近なものとなり、当市でも市民を主な利用対象とした公式LINEのアカウントがあります。LINEアカウントを友達追加するという簡単な方法で、様々な市のサービスを利用できる仕組みとなっており、市外にお住まいの方でも友達追加することでサービスを利用できます。このLINEを活用して、市外来訪者を市内全域に人流誘導、別な言葉で言うと回遊を促進する、これについて案を考えてみました。

その前に、LINEを使った回遊促進事例を調べてみたところ、国交省のスマートシティモデルプロジェクト、この支援を受け、宇都宮市では実証実験が行われていました。

案の説明に戻ります。

龍ヶ崎市公式のLINEメニューに市外来訪者向けの案内窓口を新設し、そこから入った先に「散策」や「まち巡り」、「遊ぶ」、「体験」、「食べる」、「イベント」などの目的別の入り口を用意し、例えば散策では神社、寺院仏閣や若柴、牛久沼湖畔の回遊コース、まち巡りでは、レンタサイクル、関東鉄道竜ヶ崎線、コミバスなどを使った回遊コース、遊ぶでは市内で遊べる公園や日帰り入浴のできる施設、また体験では農業体験、収穫体験、セスナでの遊覧飛行体験、食べ

るでは市内の飲食店、イベントでは、お祭り、マルシェの開催状況や予定、これらをその先で案内します。これまで様々な場所、方法で分散して発信された情報を案内ポータルで集約し、来訪者は知りたい情報を簡単に探し出すことができるようになります。また、さらに工夫を凝らし、散策やまち巡りの回遊コースの紹介の中から、遊ぶ施設、体験施設、食べる施設への紹介するルートをつくることや、訪れた先々でのスタンプラリーで観光物産品や湯ったり館入浴券をもらえるなど、面白さを加えることで回遊が促され则认为ます。

なお、現在ある市公式のLINEアカウントメニューが煩雑とならぬよう、これは活用せず、新たに市外来訪者向けのLINEアカウント、これをつくり、そこから情報を提供していくのもよいかと思ひます。メニューに拡張性を持たせることもでき、発信する情報を増やす場合の操作性もよくなると考えます。

LINE以外でQRコードによる回遊促進についても考えてみました。QRコードはそれを読み込むだけで対象ページへジャンプするもので、龍ヶ崎市駅の観光案内地図にも表示されており、読み込むことで施設の詳細な情報を見ることができます。散策やまちめぐり、回遊コースのQRコードを案内板や案内チラシなどに埋め込み、お勧めのコースを紹介することで回遊を促せるのではと考えます。これらの案への見解をお聞かせください。

菅沼秀之産業経済部長

今議員から、市外からまちへ人流誘導の様々な具体的な提案をありがとうございます。市公式LINEにつきましては、これまでもイベント等を周知するために活用してきているところでございますが、ただいまご提案いただきました市公式LINEを人流誘導策として利活用することにつきましては、追加する機能やそのデザイン性、操作性などが利用者の利便性を損なうことがないか関係各課と検討し、慎重に進める必要があると今のところ考えております。また、イベント情報などを市外の方に提供するための新たなLINEアカウントの取得につきましても、機能や利用者のニーズなどを調査し、研究してまいりたいと考えております。

次に、観光案内板などへのQRコード等の二次元コードを表示し、散策経路を案内することやJR龍ヶ崎市駅の構内に観光物産センター及び観光案内地図の場所並びにレンタサイクルの貸出しの案内を表示することにつきましては、本市を訪れた方々の利便性を高めるものと考えますことから、設置方法や設置場所の検討を行い、管理者と協議してまいりたいと考えております。

山村 尚

QRコードの活用、案内板の表示に関して管理者と協議していただける、LINEの活用は新たなアカウントでの運用は調査検討していくとのご回答でした。ICTの活用と工夫をそこに組み合わせることで、数ある点と点が線で結ばれ、地域活性化、地方創生につながれると考えます。前向きな検討と対応をお願いしたいと思ひます。

続いては、道の駅整備事業の再検証について。

道の駅再検証の結果が先日公開され、市民アンケートが開始されました。再検証の結果を踏まえ、市民、市内の各エリアにお住まいの個人や事業主、事業者の方、数十名から意見を伺いました。その中で最も多い意見だったのが、「広場を公園として整備する。公園を整備するといつてもただ整備をするのではなく、他では行われていないような利活用方法を考え、他と差別化することでにぎわいを持たせるスポットとする」、このような意見でした。また、現在行われている市民アンケート、その内容は、にぎわいづくりの必要性があるかないか、にぎわいづくりに必

要な取組では、水上スポーツの場、サイクリングスポット、イベント施設整備等。あったらよい機能では、水上アクティビティ、ドッグラン、キャンプ、バーベキューなど。そして、道の駅整備をした場合の期待効果と、最後は、道の駅整備を「してほしい」か「必要ない」か、これらの設問であり、利活用方法は断片的に設問されています。広場整備を行うに関する選択肢はございませんでした。

私の伺った多くの意見である「広場を公園として整備し、ビジョンを持って利活用する」は、「アンケートの意見欄内容と利活用に関連する選択結果から分析します」と事前に行ったヒアリングでお聞きしました。意見欄の解釈次第では、いかようにも取れてしまうのではないのでしょうか。再検証資料では、広場として整備するパターンが書かれており、利活用のアンケート設問がある以上、「道の駅整備をしてほしい」に関する二つの選択があるように、「広場を整備してほしい」「広場を整備してほしいが、その利活用は十分検討してほしい」、これがあるべきではないかと考えます。現時点での再検証資料には、活用方法に関するビジョンが示されておりません。「ビジョンがあり、それに賛同できなければ整備に反対しない」との意見も伺っており、それが示されないために、「整備しない」の選択を余儀なくすることになります。

今回の再検証で地域振興施設を整備するかしないかが焦点になって、それも重要ですが、道の駅整備予定地を、どのようなビジョンを持って、そして利活用するか、市民の関心はこちらに向いているのではないのでしょうか。今回行われているアンケートで、道の駅整備を含めた牛久沼周辺の土地活用に関して、市民の思いやその傾向が初めて確認できます。次の段階では、意見欄の内容を丁寧に拾い上げ、道の駅整備予定地を活用するとした場合には、暫定ビジョンを示し、整備予定地の新たな利活用方法を含めた二次アンケートを取り、その結果から、最終ビジョンと方向性を示してはと考えます。ご見解をお聞かせください。

木村博貴市長公室長

道の駅整備事業の再検証のアンケートにつきましては、やはり市民の皆様の関心も高く、何度もお答えさせていただいておりますけれども、12月12日現在で1,455件の回答をいただいているところでございます。この数字につきましては、昨日今日で3回目のご答弁となりますので、ちょっと今休憩中に、内容についての割合を申し上げることはできないんですけれども、回答いただいた層、それについて、ちょっとお知らせいただきたいと思います。

男性女性比で言いますと、59%対41%、6対4というところです。それと、年代別で申し上げますと、十代が、これはちょっと少なくて1.1%、20代が7.6%、30代で12.3%、40代で20.7%、50代で24.2%、60代で17.2%、70代以上で17%となっております。50代が一番高かったという状況です。この原因は、もちろん紙ベースの方も含まれておりますので、これは12月12日現在ですので、紙ベースの方は約10%程度含まれているというふうに捉えていただければと思います。このように、幅広い年代から多くのご意見が寄せられているという状況でございます。

今回のアンケートでは、道の駅整備について感じていることと合わせ、牛久沼のにぎわいづくりに必要な取組だと思っております。道の駅整備の是非はもちろん、牛久沼の活用に向けてのイメージについては、酌み取っていただけるものと考えております。

先ほど広場というお話がありましたけれども、これについても、活用についてどうしたらいいですかという設問があって、それで、もし仮に道の駅をやらないほうがいいという回答があったときには、活用があってやらないということは、違う方向で活用しなさいということですので、それをクロスすることである程度酌み取っていただけるんじゃないかというふうに考えております。

また、アンケートと合わせまして、これもお答えを先ほどさせていただいておりますけれども、

農業者ですとか商工会と道の駅が整備されるとするならば、連携をしっかりと図らなければならない。そして、大きな役割を担っていただきたいという思いがあります。関係団体等の意見も伺っているところでございます。道の駅整備事業の今後の方向性は、ただいま申し上げました関係団体等からの意見も参考に、もちろん18名の議員の皆様からの連名による提言も踏まえながら市長が判断されるもので、アンケートの結果だけをもって判断するわけではありませんので、現時点で、2回目のアンケートは実施する予定はございません。

また、ビジョンということでございますが、活用のビジョンにつきましては、道の駅整備予定地を市長が何らかの活用を行うという判断に至った際には、そのビジョンも併せてお示しできますようこの作業を進めてまいりたいと考えております。

山村 尚

今回1回のアンケートが行われたわけですが、なかなかあのアンケートだけで市民の思いを、どう思っているのかというのを把握するのは難しいのかなと思います。市民とつくる龍ヶ崎の新時代、市長の掲げる政策の大前提となるものなんですけれども、1度きりのアンケートで、整備予定地のこの先のビジョンはまだ示されていなく、この情報だけで、回答してください、アンケートはここまでですというのはいかなものかと考えます。龍ヶ崎をすばらしい街にしたいと考えている市民はとても多いです。重要な局面で市民の意見を聞くことが市民とつくる龍ヶ崎の新時代なのではないでしょうか。この件に関して、再度検討をお願いします。

続いての質問、近隣エリアの開発計画の状況とその影響についてです。

道の駅再検証に関する資料がこれまで二度示されました。10月13日、1回目の資料説明を受けた際に、2025年の開業予定とも言われている(仮称)イオンモール取手に関し、これができることによる影響規模調査に関し提言いたしました。その後2回目資料が配付され、内容を確認しましたが、これに関する記載はございませんでした。

イオンモールの開業に関する状況がどのようになっているのか、調べてみました。今年5月に、取手市議会と市民との間で意見交換会が行われました。その中の質問、「桑原地区の現在の進捗状況と完成目標年度に対し、地元地権者と市とイオン共同事業体の3者協働により早期事業化に向けた検討が進められ、令和5年度の都市計画決定に向け、国・県などと協議を進めている」との回答がありました。また、令和4年10月、取手市長発行の市民に向けた市政報告チラシの中では、「イオン計画の進捗状況は、事業に必要な面積をイオン側が確定、明示し、賃料の目安を提示、地権者との合意形成を進めている」と書かれています。

改めて質問いたします。桑原地区開発計画について、当市として認識している状況をお聞かせください。また、それができた際の影響をどのように考えているのか、お聞かせください。

木村博貴市長公室長

取手市桑原地区の開発につきましては、大規模商業施設を整備する桑原地区土地区画整備事業として取手市が土地区画整理事業の協力者を公募した結果、イオンモールとイオンタウンの共同事業体が選ばれたと取手市の担当者の方から伺っております。現在、先ほど議員からもございました令和5年度の都市計画決定を目指して関係機関と協議を進めている段階とのことでございます。

本市の道の駅から10キロと離れていない同じ国道沿いに巨大な商業施設ができるという計画でございまして、開発面積や商業施設の規模は、本市の道の駅を遥かに上回ったものとなっております。ショッピングモールや農産物の直売なども提案されているようですので、本市の道の

駅とは、物販機能として競合する部分もあろうかと思います。さきの全員協議会でもご意見をいただきましたが、現在実施中のアンケート調査においても、そのようなことを危惧するご意見を頂戴しているところでございます。

ただ、一方では、大規模開発は、県南地区や国道6号沿線の交流人口を増やす誘因効果も大きなものであると考えているところでもございます。他市の取組で、開発時期や、より具体的な整備内容が明確になっていない中では、その影響を推しはかることは大変難しい状況でございます。いずれにいたしましても、整備する際には、牛久沼の環境を生かした特徴ある施設運営とすることで、すみ分けを図り、道路利用者はもちろん、地域の皆さんが集う場となるよう努めることが肝要であると考えているところでございます。

山村 尚

イオンモール取手と牛久沼道の駅、これと類似する関係を持つ施設がございました。再検証で参考とした取手市の道の駅しょうなんと、そこから4キロメートル離れた柏市のセブンパークアリオ。平成30年8月に行われた柏市の地方創生総合戦略評価委員会の会議録を見ると、「市内主要観光エリアの流動人口について」のタイトルで、道の駅しょうなんの来場者数が減少している要因の一つをセブンパークアリオ柏ができたことと分析しており、逆に、セブンパークアリオ柏内にある農産物直売所が売上げを伸ばしているとも書かれています。そして、道の駅しょうなんは、今後競合する農産物直売所と切磋琢磨していかなければいけないと締められていました。このような情報も今後の判断材料にしていいただければと思います。

ここからは、広場整備、道の駅整備が行われた場合について質問いたします。

道の駅整備事業の再検証について、市民の方からご意見を伺った際、仮に施設整備がされ、「そこに自転車で行くにしても、道路の整備がされていない。公共交通機関で行くにしても、バス停は遠い。なので、行かない」とおっしゃられていました。道の駅整備予定地の整備方針は現時点で決まっていますが、仮に整備された場合、その利用者には、当然市民は含まれます。整備事業は市民の税金により行われるものであり、そこへのアクセスについての配慮が必要です。市民がアクセスする際の公共交通機関、自転車でアクセスするための道路整備などに関し、どのようにお考えか、お聞かせください。

菅沼秀之産業経済部長

道の駅整備予定地は、龍ヶ崎市駅から1.5キロメートル、徒歩で約20分の距離にあり、交流拠点としての活用も見込まれますことから、交通アクセスの向上については重要な検討課題であると認識しております。現在は道の駅整備事業の再検証の過程にありますので具体的な検討には至っておりませんが、施設整備の方針が示された際には、コミュニティバスや乗り合いタクシーをはじめ、現在検討を進めておりますAIオンデマンド交通など、それぞれの目的や役割などを十分に考慮しつつ、施設の利用状況等を注視しながら検討してまいりたいと考えております。また、自転車によるアクセスにつきましては、牛久沼トレイル構想などもありますことから、龍ヶ崎市駅西口からのアクセス道路について課題の整理やルートの選定などを行い、西口ロータリー周辺の環境整備、誘導サインの充実など、整備方針について、関係部署とも連携を図りながら検討を行ってまいりたいと思います。

山村 尚

牛久沼トレイル構想も今後検討が進んでいくものと認識しています。これが実現した際には、自

転車を使った移動は、牛久沼トレイルにとどまらず、馴染地区をはじめ、まちなかやニュータウン方面へも波及することが想像できます。自転車移動に必要な安全、安心を確保した道路整備に関しても、順次進めていただきたいと思います。

続いての質問、他施設と差別化を図るための創意工夫についてです。

近年新設される道の駅や公園は、施設設備などに創意工夫が施され、にぎわいがありますが一方、道の駅は、約3割が赤字。新設された公園でも、利活用次第でにぎわいが大きく変わります。広場という施設、道の駅という施設、どちらにしても言えることですが、ドライブ通過時の立ち寄りスポットという位置付けではなく、牛久沼を生かした目的地化される施設となるよう創意工夫が必要と考えますが、いかがでしょうか。

萩原 勇市長

道の駅の整備につきまして、現在再検証中でもございますので、牛久沼の活用という主旨でお答えさせていただきたいと思います。

本市の持つ様々な地域資源が活用され、多くの人々が訪れるまちとなり、市民の皆様がより龍ヶ崎を誇れるよう次期最上位計画においてもリーディングプロジェクトの一つとして地域資源を活用した観光まちづくりの推進を掲げております。牛久沼は、本市の持つ特徴的な地域資源でありますので、交流の拠点として有効に活用し、交流人口の増加につながる取組を幅広く展開してまいりたいと思っております。現状においても、牛久沼を舞台に、水辺や水中の清掃活動、地域の子どもたちを対象としたウィンドサーフィン少年団、牛久沼を起点としたサイクリングなど、様々な活動が行われております。水辺に価値を見いだして活用しようとする機運も高まりつつあると感じております。流通経済大学の教授で、トライアスロン競技でオリンピックに四大会連続出場している田山寛豪さんにお話を伺った際には、練習も含めて牛久沼を泳ぎたい、そのような活用も考えてほしいとの提案もいただきました。これまで、職員が現場に出向き、話を伺う機会を設けてまいりましたが、今後も、市民の皆様をはじめ、多くの方々の意見や提案などを伺ってまいりたいと考えております。その上で、牛久沼を市内外からより多くの人々が訪れたくなるような水辺とすることにより、交流の場として他との差別化を図れるものと考えております。

山村 尚

他の施設と差別化を図るための創意工夫について、市民や多くの方からの意見、提案を伺っていくということでした。これが重要だと考えます。私も市民の方と牛久沼の活用について話し合い、様々な面白いアイデアを聞くことができました。例えば、仮に建物をつくるとした場合、大きいものはつくらず、コンパクト化したものを幾つかつくり、トレンドが変われば、一つの建物だけを違うものにつくりかえる。これは、ここ10年間で、世界、世の中が大きく変化したように、時代が変わればニーズも変わり、お金をかけずにトレンドに対応するアイデアでした。また、別のものでは、道の駅整備予定地に地域のゲートウェイ機能を持たせ、ここから市内の様々なスポット、エリアに回遊を促す場所とするなど、市民の持つすばらしいアイデアを取り入れ、市民とつくる龍ヶ崎の新時代を実現してほしいと考えます。

最後の質問です。

要配慮者に向けた施設整備についてです。

先ほども少し触れましたが、交通手段に不便があるためそこへは行かない。このような課題がありますが、他方で、要配慮者向けの施設整備がされていないため行かない、行けないと思われる方もいらっしゃいます。

そこで質問です。

つくられる施設は、あらゆる人が平等にその恩恵を享受できなければならないと考えますが、施設整備をするとなった場合、高齢者、障がい者など要配慮者に向けた施設の整備について、どのようにお考えでしょうか。

萩原 勇市長

年齢や性別、国籍、障がいの有無に関わらず、誰もが快適に利用しやすいよう、まち、もの、環境等を整備するユニバーサルデザインという考え方は、常に意識しなければならないことと承知をしております。このような考え方は、道の駅に限ったことではなく、全ての公共施設におきまして、障がい者や高齢者などを含む全ての人が、安全に、安心して、円滑かつ快適に利用できる施設の整備を目指すことは、当然の責務として考えております。

山村 尚

施設整備が行われる場合には、障がいの有無に関わらず、誰もが一緒に遊べる、過ごせる場所、ユニバーサルデザインによるインクルーシブな遊び場などと、これら十分な配慮をした施設とすることで、行く楽しみができたと思ってもらえるような施設整備の検討をお願いします。

以上です。